

## －ポイント6－

- 教師と児童生徒との人間関係を深める
- 自己の生き方や人間としての生き方について考えを深める
- 家庭や地域社会との連携を深める
- 豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性の育成を図る
- 児童生徒の心の理解を深め、実態に応じた指導をする

## (1) 教師と児童生徒との人間関係を深める

道徳教育は、教師と児童生徒との信頼関係が確立し、温かい学級の雰囲気や安心して学習できる環境がなければ、実質的な効果は期待できません。日頃から、児童生徒を心から理解し、共に考え、悩み、感動を共有し、よりよく生きようとする姿勢で指導に当たることが大切です。

## (2) 自己の生き方や人間としての生き方について考えを深める

児童生徒の発達の段階に即して、小学校では、自己の生き方についての考えを深め、中学校では、道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深められるようにすることが大切です。そのために、道徳の時間を中心に、毎日の生活や学習においても、自分の日常の姿を振り返ったり、伸ばしたい自己像や自己目標などを意識したり、人間とは何かということや人間としての生き方について探求したりする機会を充実することが望まれます。

## (3) 家庭や地域社会との連携を深める

日常生活における道徳的実践を促すためには、学校と家庭や地域社会が連携を密にし、保護者や地域の人々との共通理解を深め、相互の協力によって道徳教育の充実が図られるようにすることが大切です。

## (4) 豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性の育成を図る

学校の教育活動全体において、ボランティア活動や自然体験活動など様々な体験活動を充実し、それらの体験を通して、自然な形で児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図るようにします。

## (5) 児童生徒の心の理解を深め、実態に応じた指導をする

一人一人の児童生徒が人間としてよりよく生きようとする願いや気持ち、課題意識や悩み、心の揺れなどを共感的に理解して、児童生徒の実態や発達の段階に応じた指導を行うよう工夫する必要があります。